



日本青年国際交流機構

International Youth Exchange Organization of Japan

共通活動

昭和時代の活動

- 昭和58年～60年 オーストラリア「カウラ募金」
- 昭和58年 西サモア、トンガとの音楽交流
- 昭和57年～昭和62年 マザー・テレサ施設支援活動
- 昭和56年～ボイス・フォーラムの開催
- 昭和47年ビルマの子供たちにエンピツを贈る運動
- 昭和46年韓国身障者施設支援「善意の一坪運動」

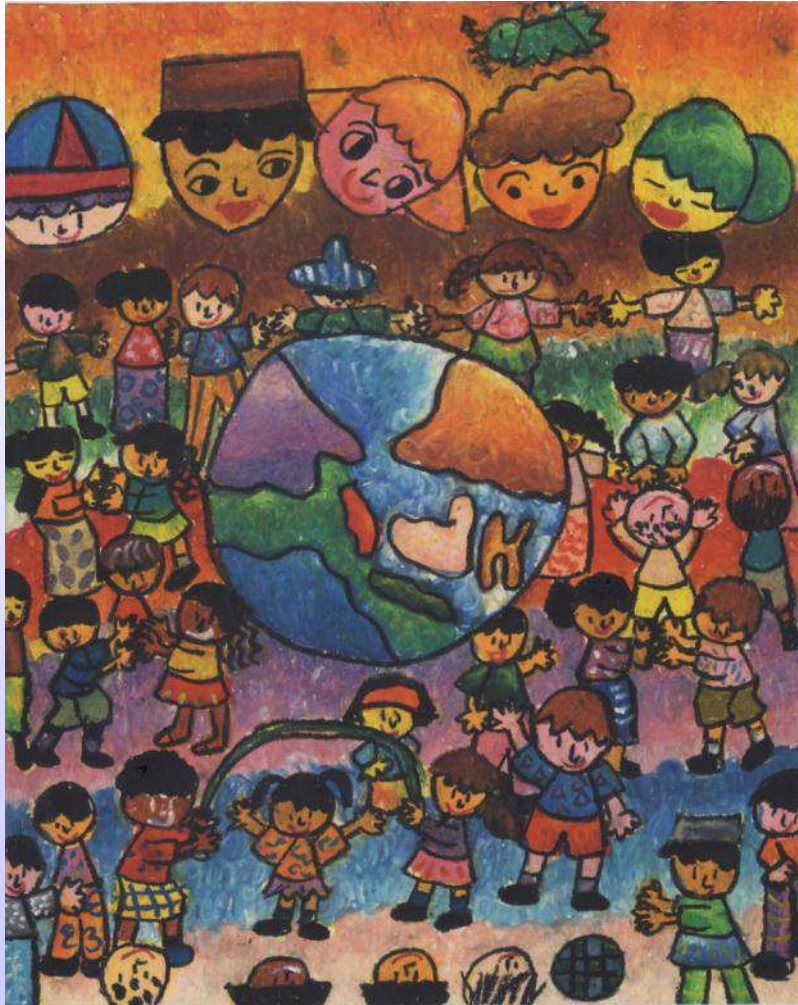
マザー・テレサ施設支援活動 (昭和57～62年)



第14回「青年の船」事業がインドのカルカッタ(現コルカタ)にあるマザー・テレサ施設を課題別視察で訪問したのをきっかけとして始められた支援活動。活動のねらいは、単なる物資の支援活動ではなく、マザー・テレサ施設のシスター及び協力者たちの社会奉仕活動を紹介していく中で、ボランティアの精神とは何であるのかを考え、学ぶことでした。

第16、18、20回の「青年の船」事業で継続してインドのボンベイに寄付金と品物が送られ、その後は、IYEOが日本のマザー・テレサ施設からフィリピンのトンドにある施設への支援物資の輸送協力依頼を受けて、それらの輸送に係わる諸手続きを行いました。

アジア子供絵画展（平成6年）



“We are a big Family” Widtya Putri インドネシア

SSEAYPインターナショナル第7回総会が日本で開催されるに当たり、「国際家族年」を記念して開催しました。

東京で開催した後に全国を巡回しました。ASEAN各国でも展示会を開催しました。教育・文化という身近な観点からASEANを紹介することを目的としました。

絵は「東南アジア青年の船」事業参加青年により収集され、その中には、フィリピンのストリートチルドレンの絵も含まれていました。



阪神・淡路大震災ボランティア (平成7年)

IYEO大阪のメンバーが中心となり、避難所を
一か所約1か月間支援しました。

避難所に派遣するボランティアは全国から募り
ましたが、日程を調整したうえでIYEOのメン
バーが継続的に支援できる方式としました。

「東南アジア青年の船」事業 25周年記念エッセイコンテスト(平成10年)



エッセイを発表する、
インドネシア人の
エッセイ優勝者

「東南アジア青年の船」事業の25周年を記念して、SSEAYP国際ショナルが行ったエッセイコンテストに参加しました。

共通テーマは「21世紀のアジアのリーダーシップ」で、青年の部(大学生及び30才までの青年)と少年の部(中学生・高校生)を設け、全国IYEOから応募を募りました。

青年の部、少年の部ともに多数の応募があり、それぞれの部門で優秀者各1名と佳作を数点選出しました。

優秀者は第25回「東南アジア青年の船」事業の実施の際に日本に招待されました。

グローバル・フォト・コンテスト (平成16~20年)



GPC2007 (A treasure for our future generations)
(Pure Smile)
Erika Yamate (Japan)

平成16年3月に「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議で話し合われた“芸術イベント”を、具体化させ、「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)の共通活動として行ったのが始まり。

IYEOが取りまとめ、海外への広報及び写真集約については、「世界青年の船」事業事後活動組織(The Ship for World Youth Alumni Association, SWYAA)が協力しています。

第1回は「食のある風景」、第2回は「ストリート・マーケット」、第3回は「微笑みと笑い」、第4回は「次の世代に遺したいもの」をテーマとしました。

各テーマの優秀作品約30点は、グローバル・フォト・パネルとして国内のIYEO支部や世界各国の事後活動組織へ貸し出され、イベントや展示会や説明会等で活用されています。なお、このプロジェクトは、IYEO設立20周年の記念事業の1つとしても位置づけられました。

スマトラ沖地震復興募金 (平成17年)



スマトラ沖地震による津波の被害を受けた地域のうち、「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業に参加している、タイ、インドネシア、スリランカの災害復興協力として、募金活動を行いました。

募金は、IYEO会員からだけでなく、第17回「世界青年の船」事業参加者、メキシコ合衆国とアメリカ合衆国の事後活動組織によって集められ、タイの事後活動組織を通じてタイ政府とラオ島モーガン族のための貯水槽プロジェクトへ、スリランカの事後活動組織を通じてスリランカ政府の携わる復興活動に使われました。

ジャワ島中部地震災害救援募金 (平成17年)

マクロコズムなど会員広報誌を通じて募金を集め、とりまとめた募金を、日本赤十字社本社を通じて寄付をしました。(42640円)

ミャンマー・サイクロン災害救援金 (平成20年)



ラー・ミン大使にお見舞い金を渡しました。(\$500)
「東南アジア青年の船」事業・「国際青年育成交流」事業(ミャンマー)の既参加者だけではなく、他事業の既参加者からも被災者のために何かできないかとの意思表示がありIYEOとして募金をとりまとめました。

スリランカ教育支援プロジェクト One More Child Goes to School (平成20年～)



学校に通うことが困難なスリランカの子どもたち(小学生)を支援するプロジェクト。プロジェクトチームを結成し、2008年から二つの方法で支援を開始しています。

1.学用品等の提供: チャリティー・イベント(ランチ・パーティー、スリランカ紅茶教室等)を開催し、その収益でオリジナルノート等の文房具や学用品を購入し、子どもたちへ提供。

2.奨学金制度(フォスター・ペアレンツ): フォスター・ペアレンツ(IYEO会員等) 53名が、59名のスリランカの子供たちを支援(平成24年現在)。



サポート・ケニア・プロジェクト (平成20～21年)



2007年12月のケニア大統領選の結果起きた暴動・殺戮が約35万人を超える、という危機的状況に対し、SWYAAケニアのメンバーとともに、IYEOとしてどのような支援が実施できるかを協議して始めました。

第1期緊急支援(US\$2,000)では食糧や毛布をナクル避難民キャンプへ寄附。

第2期支援活動では、旗にスパンコール1個を縫い付けるたびに100円の寄附を募る「五千人針プロジェクト」を全国各地のIYEO会員の協力で実施したり、歌や紙芝居を通じてケニアの現状を伝えたりしました。集まった寄附は2009年8月に第2期支援活動(特に青少年育成に役立つ物資)をナイヴァシャ避難民キャンプへ届けました。

世界青年の船の森 植林 (平成20～現在)



2008年1月24日に実施されたチャリティ・ウォークを皮切りとし、様々な場面で「世界青年の船」事業20周年記念Tシャツを頒布。

その収益でインドネシアのバリ州キンタマーニ郡ペネロカン地区に0.3ヘクタール(3,000m²)の「世界青年の船の森」を植林しました。



中国四川省大地震募金 (平成20年)

林櫛参事官に中国四川省大震災被災者にお見舞いを伝え、崔天凱大使へのお見舞いメッセージと、お見舞金10万円をお渡しました。



チリ大地震募金(平成22年)

寄附先は、内閣府青年国際交流事業「世界青年の船」事業の参加国であるチリの事後活動組織の代表と協議の上、テレトン (Teleton : チリ版、24時間テレビ「愛は地球を救う」のような番組で、チリ国内において国民に支持されているチャリティーイベント) とし、3月25日に送金しました。(10万円)

東日本大震災復興支援活動 (平成23年～)



平成23年3月11日起こった東日本大地震の復興支援活動に取り組むため、IYEO 東日本大震災募金口座の開設や、緊急物資の送付活動を、岩手県、宮城県及び福島県の支部と連携して行っています。





募金総額(2012年5月17日現在)

14,262,233円

内訳 団体9,539,704 円
個人4,722,529 円

岩手県青年国際交流機構

- ・炊き出し
- ・IYEO縁側カフェ
- ・「東南アジア青年の船」事業事後活動組織 (SSEAYPインターナショナル) 総会(通称SIGA)の社会貢献活動

宮城青年国際交流機構

- ・被災地ツアー
- ・ワンコインdeリフレッシュ(リラックス&リフレッシュ温泉ツアー)
- ・パソコン寄贈

船と翼の会ふくしま

- ・復興支援ぞうきんプロジェクト
- ・国際理解キャラバン隊

